


平成30年 8月30日	病虫害発生予報 9月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
----------------	------------------------------	------------------------

農薬は、専用の保管庫に鍵をかけて適切に管理しましょう
～平成30年度茨城県農薬危害防止運動期間中(6/15～9/14)～

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
大豆：吸実性カメムシ類，チョウ目幼虫	1
サツマイモ：ナカジロシタバ	2
秋冬ネギ：ネギアザミウマ	2
共通害虫：オオタバコガ，ハスモンヨトウ	3
【その他の病虫害】	
大豆，サツマイモ，ナシ，ブドウ，果樹共通，抑制トマト，夏秋ナス	4
II. 今月の気象予報	5
<p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所 Tel :0299-45-8200 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/ フェロモントラップデータ随時更新中</p>	<p><HP QR コード></p> 

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

大豆

1. 吸実性カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、寄生虫数（25株あたり）は平年より多く（本年値0.9頭、平年値0.5頭）、発生地点率は平年より高い（本年値54%、平年値23%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 薬剤散布は、莢伸長期以降、発生に応じて7～10日ごとに複数回行う。
- ② 成虫は子実を加害しながら、葉や莢に産卵する。卵からふ化した幼虫も子実を加害しながら成長するため、幼虫の発生状況にも注意する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や莢にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。特に、圃場の周縁部は生息密度が高い傾向にあるため注意する。

2. チョウ目幼虫

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、ハスモンヨトウの寄生虫数（25株あたり）（本年値0.2頭、平年値0.8頭）、発生地点率（本年値15%、平年値19%）ともに平年並である。
- ② 8月下旬現在、その他のチョウ目幼虫（オオタバコガ、ツメクサガ等）の寄生虫数（25株あたり）は平年並（本年値3.1頭、平年値4.9頭）、発生地点率は平年よりやや高い（本年値85%、平年値71%）。
- ③ 直近1か月間（7月21日～8月20日）のフェロモントラップへの誘殺数は、オオタバコガは平年並～やや多く、ハスモンヨトウは平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ② ハスモンヨトウでは、白変葉（若齢幼虫の集団加害によって白く透けた葉）の発生を防除の目安とする。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や莢にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を散布する。

サツマイモ

1. ナカジロシタバ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、被害つる先率（本年値 84.8%，過去7年平均値 7.0%）、発生地点率（本年値 100%，過去7年平均値 56%）ともに平年より高い。
- ② 8月下旬現在、寄生虫数（100葉あたり）は平年より多く（本年値 15.6頭、過去9年平均値 0.2頭）、発生地点率は平年より高い（本年値 100%，過去9年平均値 20%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 老齢幼虫になると薬剤の防除効果が劣るので、若齢～中齢幼虫の時期（つる先、上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期）の防除に努める。例年9月に被害つる先率が増加するが、8月下旬の被害つる先率がすでに高い値を示しているため、早めに圃場を観察し防除適期を逃さないように注意する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。

（平成30年8月24日発表 病害虫発生予察注意報第4号参照）

秋冬ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、被害度^{*}（本年値 52.1，平年値 45.1）、芯葉の被害株率（本年値 99.6%，平年値 85.8%）ともに平年よりやや高い。

^{*}被害度：食害の程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 雑草にも寄生するため、圃場周辺の除草を徹底する。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用し、十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 直近1か月間（7月21日～8月20日）のフェロモントラップへの誘殺数は、笠間市および筑西市で平年よりやや多く、水戸市で平年並～やや多く、土浦市、龍ヶ崎市、古河市および坂東市で平年並である。
- ② 8月下旬現在、大豆の一部圃場で発生を確認している。

[防除上注意すべき事項]

- ① 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ② 老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。なお、防除適期はフェロモントラップへの誘殺数が増加したときなので、誘殺状況（病虫害防除所ホームページ）を参考にする。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ レタスやハクサイ等では、結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため、定植時および結球始期の防除を徹底する。
- ⑤ トマト、ピーマン等では収穫終期まで加害が続くので、発生しているハウスでは防除を徹底する。

2. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 直近1か月間（7月21日～8月20日）のフェロモントラップへの誘殺数は、鹿嶋市および龍ヶ崎市で平年よりやや多く、笠間市、鉾田市、土浦市、筑西市で平年並、水戸市で平年よりやや少ない。
- ② 8月下旬現在、大豆の一部圃場で発生を確認している。

[防除上注意すべき事項]

- ① 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ② 圃場をよく観察し、若齢幼虫の集団の早期発見に努める。幼虫が中齢以上になって分散して食害するようになると、被害量が増大するだけでなく、薬剤の効果も低くなるため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ レタスやハクサイ等では、結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため、定植時および結球始期の防除を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
大豆	葉焼病	発生量：多い	8月下旬現在，平年より多い発生である。
	紫斑病	発生量：－	防除適期は開花期の20日後頃である。開花期から成熟期までに連続した降雨がある場合は，開花期の30日後に追加防除を行う。
	ハダニ類	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
サツマイモ	イモキバガ	発生量：平年並～やや多い	8月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
ナシ	黒星病	発生量：－	8月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。多発した圃場では，秋季防除を徹底する。特に，徒長枝の先端まで薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	ナシヒメシクイ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。早生・中生品種に被害果が目立った場合は，晩生品種を対象に，収穫前日数に注意して薬剤散布を行う。
	ハダニ類	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。多発している圃場では，秋季，休眠期および翌春の防除を徹底する。
ブドウ	さび病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。病原菌の越冬を防ぐため，落葉処理を徹底する。
	べと病	発生量：平年並～やや少ない	8月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。病原菌の越冬を防ぐため，落葉処理を徹底する。
	褐斑病	発生量：やや少ない	8月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。病原菌の越冬を防ぐため，落葉処理を徹底し，粗皮はぎを行う。
	晩腐病	発生量：－	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。病原菌の越冬を防ぐため，罹病した果梗の切り残し，結果母枝，巻きひげ等は剪除し，適切に処分する。
共通果樹	カメムシ類	発生量：やや多い～多い	8月下旬現在，平年よりやや多い～多い発生である。ナシ（晩生品種），カキおよびリンゴでは，飛来に注意する。
抑制トマト	黄化葉巻病	発生量：平年並	8月上旬現在，平年並の発生である。発病株はただちに抜き取り適切に処分する。促成トマトの育苗において，媒介虫であるタバココナジラミの侵入防止対策を徹底する。
ナ夏秋	チャノホコリダニ	発生量：多い	8月下旬現在，平年より多い発生である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 9月1日から9月30日)

気象庁 (8月30日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	30	40	30
	降水量	関東甲信全域	20	40	40
	日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

天気は数日の周期で変わり, 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 9月1日(土曜日)から9月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

<2週目の予報> 9月8日(土曜日)から9月14日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 9月15日(土曜日)から9月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より低い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため, 作用機構分類* (FRACコード, IRACコード) の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については, 病害虫発生予報5月号(平成30年4月26日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は, 散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。